

プロジェクトチーム 検討経過

ここでは、12回開催した「MISHOP 設立 20 周年プロジェクト会議」の各回の検討内容・検討結果をまとめています。

第1回プロジェクト会議

(2008年7月10日)

参加者 36人
テーマ 三鷹市の国際化施策について

第1回プロジェクト会議では、これからのMISHOPの活動の方向性を考える前提として、三鷹市の企画経営室長から、三鷹市の国際化施策の考え方についてレクチャーを受けました。

三鷹市の国際化施策について(要旨)

講師：三鷹市企画部企画経営室長 伊藤幸寛さん

1 三鷹市のまちづくり

三鷹市は自治基本条例の中で、三鷹市で活動する人は市民であると定義しています。これが、市民参加と協働のまちづくりを推進する三鷹市の大きな特徴の一つです。これからのまちづくりは、ネットワーク型によって進めることが必要だと考えています。これは、様々な部署の連携や三鷹市で活動する多くの人の繋がりによって一つの目標に進んで行こうというもので、まさにそれが自治体の底力となります。

人々がコミュニティを醸成し、皆が主役になって、全ての働く人、住む人、活動する人がまちづくりを進めて行く。こうしたことが今後、とても大切になるのではないかと思います。

2 MISHOPの活動について

三鷹市の外国人登録者数は約3,000人ですが、今後は着実に増えていくことが予測されます。これまでMISHOPが取り組んできた草の根の国際交流、市民が主体となった国際交流は、近隣市だけでなく全国にも誇れる取り組みだと考えますが、今後はさらに、こうした活動の必要性が高まると思います。国際交流フェスティバルひとつをとっても、行政の力だけではとてもできるものではありません。

このほか、防災パートナーシップ協定の締結や通訳・翻訳ボランティアサービス制度の実施など、三鷹市とMISHOPはお互いに連携しながら、着実に取り組みを進めていると言えます。

3 三鷹市の国際化施策について

三鷹市の国際化施策を基本計画の体系に沿ってお話しますと、まず相談事業があります。相談事業では、気軽に相談できる体制づくりが必要です。

次に地球市民意識の醸成です。市民の皆さん一人ひとりに、地球の中に暮らしているということを十分に理解していただく、そういう意識を醸成していく。これは地道ですが非常に大切な取り組みです。

3つめは国際交流活動の推進。これはMISHOPの活動に負うところが非常に大きい分野ですが、その更なる拡充を図っていきたいと考えます。

4つめは国際的なネットワークの形成です。海外の自治体からさまざまな交流の話をいただいております、今後のネットワーク形成について検討を進めています。

そして5つめが外国籍市民にも暮らしやすいまちづくりの推進です。特に防災・教育・医療などに関して、情報提供の充実、サポートネットワークづくり、災害時・緊急時の対応強化などが大きな課題となっています。

最後に、推進体制の整備として、国際化円卓会議の充実やMISHOPとのさらなる連携強化も課題として考えているところです。市としては、今後MISHOPとどのように連携の強化を図り、国際化施策のパートナーとしていかに取り組みを進めていくのか、この点が非常に重要だと考えると同時に、期待をしているところです。

第2回プロジェクト会議

(2008年7月26日)

参加者 29人
テーマ ラベル分析による
ディスカッション

第2回プロジェクト会議では、参加者が小グループに分かれ、「外国籍市民が住みやすいまち」と、「MISHOPが三鷹市の中で果たす役割」という2つのテーマについて、ラベル分析によるディスカッションを行いました。

ディスカッションの手法

1 ディスカッションのテーマ

- (1) 「外国籍市民が住みやすいまち三鷹は、どのようなまちだと思いますか？」
こんなまちならきっと外国籍市民が安心して快適に暮らせるのではないかというイメージを自由に出し合う。
- (2) 「MISHOPは今後、三鷹市の中でどのような役割を果たしていくと良いと思いますか？」
MISHOPがこんなことに取り組むと良いのではないか、あるいは自分自身がこんなことに取り組んでみたいという活動のアイデアを出し合う。

2 ディスカッションの流れ

- (1) グループ分け
参加者全員が4~5人ずつ6つのグループに分かれる。
- (2) 自己紹介と係の決定(約5分)
「進行」「まとめ」「発表」「ちょっと来てカード」の4つの係を決める。
- (3) 意見交換(約30分)
ディスカッションのテーマについて、自由にアイデアを出し合う。自分の意見はラベルに書いて、討議ボードに貼っていく。
- (4) まとめの作業(約25分)
ア 討議ボードに貼られたラベルを、似ている意見や同じようなアイデアごとに分類する。
イ グループの意見を3つにまとめ、討議ボードの「まとめ」欄に記入する。まとめきれなかった意見の中で面白いアイデアがある場合には、「残したい意見」に記入する。
- (5) 発表(各グループ約3分)
グループごとに、ディスカッションの結果を発表する。

(6) 投票

グループごとのまとめの意見について、参加者全員で投票を行う（1人8票）。

3 ディスカッションのルール

- (1) ディスカッションの目的は結論を出すこと。何かを決めて終わるようにし、後戻りしない。
- (2) 出てきたアイデアが実現可能かどうかは考えない。
- (3) ひたすらアイデアを出す。
- (4) 相手のアイデアを否定しないで、褒める。
- (5) 参加者全員が発言できるように配慮する。
- (6) 人の意見を聞いて、自分の意見を変えても構わない。

ディスカッションの結果

ここでは、ディスカッションで参加者の皆さんから出された具体的なアイデアを「・」で、各グループのまとめの意見を「ア・イ・ウ・... <得票数>」で表示している（グループごとのまとめの意見で同じ内容のものは一つに集約した。）。その上で、さらに大きなカテゴリー別に「(1)・(2)・(3)...」で整理している。

1 テーマ1 「外国籍市民が住みやすいまち三鷹は、どのようなまちだと思いますか？」

(1) 多文化理解が深化したまち

ア 外国籍市民・日本人の「たまり場」があるまち <16票>

- ・ 外国籍市民の居場所（たまり場）がある
- ・ 日本人と気楽につき合える
- ・ 外国人を特別視しない
- ・ 外国人同士や日本人と外国人とのネットワークができる
- ・ 自国の食材、新聞、ビデオが求めやすい

イ 文化の尊重とグローバル化の把握 <15票>

- ・ 国際化、グローバル化の動向についての長期的な展望と基本的な考え方が深まり、安心した生活ができる
- ・ ローカル色のあるグローバル化に取り組むまち
- ・ 各国のフェスティバルを開催する
- ・ 出身文化を尊重する環境がある

ウ 相互コミュニケーションの場の充実 <13票>

- ・ 気軽に声をかけ合うまち

- ・ 衣食住に特に問題がないこと
- ・ 住居問題（狭い、保証人がいない）などへの公的支援がある
- ・ 友人になれるシステムがある
- ・ 言葉、翻訳
- ・ LLJが拡大、強化されている

エ 気楽に声をかけてもらえるまち <13票>

- ・ 歓迎されている気持ちになれる
- ・ 初めての外国人にちょっと声をかけてあげる
- ・ 住んでいる周囲の人と交流ができる雰囲気がある
- ・ 差別されない
- ・ 環境（空気、道路など）が良い
- ・ みんなが挨拶できる
- ・ 日本に関するいろいろな知識が吸収できる

オ 「お客さん」としてではなく、「参加」できるまち <10票>

- ・ 助けられるだけでなく、誰かの役にも立てる
- ・ まちづくりに参加できる
- ・ 日本人、他の外国人との交流の場がある
- ・ 自国の文化を紹介する機会がある
- ・ プロジェクトに外国人が参加できる

カ 交流支援の促進 <9票>

- ・ ホームステイを気楽に受け入れるまち
- ・ 住居をもっと気楽に提供できるまち
- ・ 日本の文化を教える機会がある
- ・ 日本語を学べる場所が近くにある
- ・ MISHOPの日曜日オープン
- ・ LLJの会場を日曜日にも開放
- ・ 日本人でも外国人でも楽しいことは何か（食卓を囲む）ポットラック

キ 自分の文化を大切にしながら、地域コミュニティと相互交流ができるまち <8票>

- ・ 母国の風習を日本人にも発信することにより、相互交流を図る
- ・ 自分の母語と文化を守っていくことができる
- ・ 社会的な問題に向き合う市民がいる
- ・ 地域コミュニティが解放的である
- ・ 子どもの母語の保持のため、子どもと留学生との定期的な交流
- ・ 同じ文化の友達がいる
- ・ 近所の人々が助けてくれる
- ・ 子どもが安心してコミュニティに参加できる
- ・ 市民の中に偏見がない

ク 一般市民の協力要請 <5票>

- ・ 外国籍の方が友人に自慢できるまちづくり
- ・ 気軽に店に立ち寄れる雰囲気

ケ 残したい意見

- ・ 地域（地理・歴史・文化）情報交換
- ・ 住民協議会の有効活用
- ・ 子どもが楽しく仲間入りできるまち

(2) 情報提供が充実したまち

ア 窓口を一元化し、外国籍市民の要望を取り入れながら、最新の生活情報を継続的に提供

< 18 票 >

- ・ 生活に慣れるまで、情報が得やすい（ハンドブック、市役所からの情報の多言語化）
- ・ 外国語による生活情報の提供を積極的に行う
- ・ 外国籍市民が何でも物申す場をつくる
- ・ 外国籍市民専用のご意見箱の設置
- ・ 母国語での情報の充実
- ・ いつでも相談できる場所がある
- ・ 市民サービスが平等に受けられる
- ・ 意見を取り上げる窓口があり、それが機能している
- ・ 市内に外国語（多言語）表記の案内板を増やす
- ・ 看板や広告に母国語表記があり、サービスを受けられる

イ 生活情報の提供の充実 < 11 票 >

- ・ 日本人にでも分かりにくいことを分かりやすく伝える（地図、道路標識など）
- ・ 自転車の保管場所（有料、無料）が分かりやすい
- ・ 身近に生活上の情報を入手できるところがある
- ・ バス、電車の乗り方が分かる
- ・ 迷いにくい（地図、案内の充実）
- ・ 行政ポスターが多言語化されている
- ・ 諸国の食材が入手できる（外国人が集まる）
- ・ 日本人でも不安に感じることを安心に変える（夜間の自転車灯、交差点）
- ・ 住み方のルールを分かりやすく知らせる（ごみなど）
- ・ 近接の行政情報が入手しやすい
- ・ 日本人でも手にしにくい情報が伝わる（フリーペーパーの入手先）
- ・ 身近な場所（保育園など）の案内

ウ 外国語によるサービスの充実（電話相談窓口や外国語による案内標識） < 10 票 >

- ・ 各種表示が外国語で大きくなされている
- ・ 外国語相談ができる電話回線がある
- ・ 観光案内のサービスがある
- ・ いつでも英語、中国語、ハングルで相談できるところがある
- ・ 日本語教室がある
- ・ 病院に外国語の話せる医師と看護師がいる

エ 各種関連機関との連携実行と広報活動（他市の国際交流機関や教育機関との連携） < 10 票 >

- ・ 市役所と MISHOP との更なる連携
- ・ 学校、教育機関との連携
- ・ 他の機関（例えば武蔵野市の団体）との協力
- ・ MISHOP と外国人グループとの定期的な会合がもてる

- ・ 防災訓練への参加ができるまち
- ・ 市外への国際活動のPRを行う
- ・ 市内の外国人同士の連絡網設立
- ・ 交番 = 「コウバン」など、日本語表記へのふりがな表示
- ・ 所得、日本語力が不足している人への援助
- ・ MISHOP のイベントを拡充（孤立感を和らげる）

オ 外国語表示の徹底（公共施設、街並み） <7票>

- ・ 中国語、ハングルによる案内
- ・ 外国語（英語、中国語、ハングルなど）の表示が十分にある
- ・ 英語程度であればかなりの人が話すので住みやすい

カ 行政（防災、学校、医療、市役所）の情報サービス <6票>

- ・ 外国人がどこを訪ねれば自分の望む答えが得られるかが分かる
- ・ 外国籍市民への情報が伝わる
- ・ 緊急時の集合場所（防災を含む）が外国人にも分かっている
- ・ 市役所が「親切」で「対応に優れている」との実績と「口コミ」が必要
- ・ 外国人の子どもたちが安心して学校へ行ける
- ・ 必要なときに医療サービスを安心して受けられる

(3) 安心して生活できるまち

ア 生活ガイダンスコースの提供（説明、ツアー、小冊子など） <12票>

- ・ 生活上のルールについて詳しく教えてくれる（ごみ出しなど）
- ・ 困ったときに相談するところがある（特に子どもの教育、医療）
- ・ 日本人個人で処理できない問題について相談するところを紹介できる
- ・ 外国人の子どもへの教育への支援システムが構築されている
- ・ 医療への支援システムが構築されている

イ 学校のサポート体制の充実（母親を含む） <12票>

- ・ 子どもの学校生活への手厚いサポート
- ・ 外国人の母親の会を作って、教師との定期的な相談会
- ・ 学校が信頼できる
- ・ 教師と親身な相談ができる

ウ 生活環境の整備 <10票>

- ・ 医療が受けやすい
- ・ 日本に来てから生活するまで、すべての事柄を説明してくれる人がそばにいる
- ・ 食材が手に入りやすい
- ・ 相談できる人が身近にいる
- ・ 安全、安心が感じられる
- ・ 教育が外国人にも開かれている
- ・ 子どもの面倒を無料でみてくれるところがある
- ・ 気軽に声をかけてくれるまち
- ・ 外国人が多い

エ 困ったときに対応してくれるまち <8票>

- ・ MISHOP に行けば何とかなるというPRが充実している

- ・ 外国人同士のグループがある
- ・ 困ったとき、知りたいことがあるときに相談先がある
- ・ 母語で話し、相談できる
- ・ 緊急時対応の情報が強化されている
- ・ 大切な情報（医療、教育、災害など）が届くまち
- ・ 多言語での表示（市街マップなど）がある
- ・ 病院で外国語対応ができる
- ・ 最初に、住むための情報が母語で得られる

オ 残したい意見

- ・ 外国人のための防災対策を強力に進める
- ・ 日本人にとっても住みやすいまちであることが、外国人にとっても住みやすいまちである

2 テーマ2 「MISHOP は今後、三鷹市の中でどのような役割を果たしていくと良いと思いますか？」

(1) 生活・教育支援活動

ア LLJ の内容充実 <16 票>

- ・ LLJ の内容拡大
- ・ LLJ ボランティア（日本人）の増員
- ・ LLJ 活動を通じた外国籍市民のニーズの吸い上げ
- ・ LLJ での各人要望事項の処理方法
- ・ LLJ への若い世代の参加を増やすため、日曜日開館を行う
- ・ 1日ラウンジ体験のコミュニティセンターなどでの開催
- ・ LLJ を自主グループではなく MISHOP のメイン事業のひとつに位置づける

イ 外国籍市民のための生活ガイダンス <12 票>

- ・ 市役所で外国人登録をする際、MISHOP を紹介する
- ・ 生活ガイダンスコース
- ・ パンフレットをわかりやすくする

ウ 交流から支援への進化 <11 票>

- ・ 言語、風俗、学習の支援
- ・ 一貫した語学学習支援体制づくり
- ・ 市内の企業で働く外国人の参加を促す方策
- ・ 市内その他の公共機関は、できるだけ MISHOP へアウトソーシングできる方策をとることが望まれる
- ・ MISHOP での外国人相談窓口の開設
- ・ 生活ガイダンスの提供

エ 帰国子女と外国籍市民の双方に対する教育的サポート <11 票>

- ・ 語学学校を運営する
- ・ 家族滞在の日本語支援
- ・ 小中学生が遊びに来れる場
- ・ 友達づくりの場

- ・ 帰国子女や外国につながる児童の精神的サポート
- ・ 帰国子女に対する、文化のギャップや悩みなどについての相談、カウンセリング
- ・ 国境を超える人たちが集まってくる

オ 身近な生活支援（よろず相談、電話、情報） <10 票>

- ・ 多言語の電話相談
- ・ 国際電話の無料使用（3分間）
- ・ 無料インターネットアクセス
- ・ 教員の研修（外国籍児童・生徒の心理など）
- ・ 外国とつながる子どもへの、日本語と学校の教科を結ぶ場の提供
- ・ 多言語の入学オリエンテーション
- ・ MISHOP を日曜日に外国人に全面開放し、交流を深める
- ・ たまり場づくり（例：生活情報、自国の新聞など）
- ・ 生活レベルでのたまり場づくり
- ・ 生活上のノウハウや知識の伝達
- ・ 口コミ生活情報の整備（例：各国の食材の入手方法）
- ・ よろず相談日コーナー

カ 外国人への相談・支援 <7 票>

- ・ 三鷹に住む外国人にとっての最初の相談窓口
- ・ 外国人へのよろず相談所の設置
- ・ 生活相談所を常時 MISHOP の中に開く（特に日曜日）
- ・ 外国人のよろず駆け込み寺
- ・ 外国の子どもたちへの支援（日本語、日本での生活）
- ・ 外国人家族への補習授業の実施
- ・ 外国人家族への日本語教室の開放（市役所との協働運営）

キ 残したい意見

- ・ 語学学校とカウンセリングセンターの設置
- ・ LLJ の充実と発展

(2) 活動の拠点づくり

ア 積極的・継続的な活動拠点 <17 票>

- ・ 帰国後のフォローネットワークづくり
- ・ メンバーの積極的なホームステイの受け入れ
- ・ 積極的な行動
- ・ 災害時を想定した組織づくり
- ・ メールの利用
- ・ 若い世代の生きがいの創出
- ・ 姉妹都市の小学生の交流
- ・ 目に見える行動
- ・ シェア（例：使用済みの家具の利用など）
- ・ 外国人のニーズの引き出し
- ・ 地域スタディツアー
- ・ MISHOP の船（20周年）

イ 市内外の関係機関との連携強化 <9票>

- ・ 市内教育機関との連携（子どもへの教育）
- ・ 他市国際機関との架け橋
- ・ 各委員の活動参加
- ・ 日本語、風俗学習支援者のレベルアップ組織
- ・ 人材の確保（団塊世代）
- ・ ボランティア募集

ウ 外国籍市民のニーズ把握 <9票>

- ・ 外国籍の方（長期滞在）のコミュニティ支援
- ・ 外国籍市民が気軽にイベントに参加できるようにする
- ・ 外国籍市民（特に三鷹市在住）の MISHOP 参加を強力に進める
- ・ 外国人も受け手から提供者へ
- ・ 外国籍市民が企画に参加できるように仕向ける
- ・ 外国籍市民の MISHOP に対する要望を積極的に吸い上げる

エ 行政にできない仕事を実行（縦割り行政を壊す） <4票>

- ・ 三鷹市と MISHOP との役割分担
- ・ 行政の壁を壊す役割（外国籍市民向けワンストップサービス）
- ・ 外国人が行政に望むことを気軽に提案できる場（行政への橋渡し）
- ・ 外国人と接する立場から、具体的な要望を行っていく
- ・ 各種事業の予算確保
- ・ 市からの仕事の移譲

オ 最も頼られる場所の提供 <3票>

- ・ 外国人の子どもの遊び場の提供
- ・ 安らぎの場
- ・ 外国人が少し困ったことがあったときに気軽に相談できる場所
- ・ 外国人の出身地コミュニティ

カ 残したい意見

- ・ 海外支援ができる仕組みづくり
- ・ 外国籍市民にも日本人にも認知 「何かがあったら MISHOP」
- ・ 土、日、休日の開放
- ・ 「活動の足」となる

(3) 情報収集・発信活動

ア シンクタンクとしての MISHOP の役割・充実 <13票>

- ・ 外国人の困っていることなどの情報を収集し、発信源となる（対行政、対市民）
- ・ インターネットやホームページなどで相談にのる
- ・ ホームページの更なる充実（より多くの市民に呼びかけるために）
- ・ 災害時外国人支援センター活動の充実
- ・ ガイダンスビデオをラウンジで見られるようにする（日、中、韓、英などで）
- ・ 外国人にとって困ったときのよろず相談所
- ・ 国際化・グローバル化の動向を把握・分析する研究機関の機能
- ・ 若い世代の加入が増えている時代背景を認識する

- ・ 外国人にとっての交流の場の提供

イ 日本及び外国双方の情報発信源 <8票>

- ・ 日本文化の発信（歌舞伎、相撲など）
- ・ 外国人の視点からの情報発信
- ・ 知識源（文字コース、植物観察コースなど）
- ・ 他団体との連携による範囲の拡大（みたか都市観光協会など）
- ・ 情報源となる
- ・ 相互情報交換できる場
- ・ 生活情報の集積地
- ・ 外国人が主催する文化発表会

ウ 積極的な広報活動の展開 <7票>

- ・ MISHOPの子会社として「たまり場」の経営（民営が望ましい）
- ・ 日本人とだけではなく、他国籍間の交流の仲介
- ・ 市民と外国人とを繋ぐ機能の発揮
- ・ 外国人の集まれる場所
- ・ 外国籍の子どもたちが集まれる場所
- ・ 三鷹市の国際化活動のPR（対外的に）
- ・ 全国版のMISHOP（例：フェスティバル）
- ・ フィリピンナイトフェスティバル

エ 草の根の広報活動 <5票>

- ・ 民生委員とのネットワーク
- ・ 三鷹市在住市民のMISHOP会員を増やす
- ・ 児童館、子育て支援室、保健所など他機関との連携
- ・ 広報活動（商工会、学校、交番などへのPR）
- ・ 外国籍市民の口コミの活用

オ 残したい意見

- ・ 広報活動を活発にする

(4) 交流活動

ア 情報交換と文化交流の場の提供 <8票>

- ・七夕、ひなまつり、こいのぼりなどの飾り物の説明
- ・ 日本の伝統、文化、遊びの紹介
- ・ 市民と外国籍市民とのプラットフォームの役割を果たす
- ・ 知り合いづくりの場
- ・ 海外に行く際の相談（例：現地情報など）
- ・ 日本人が海外に行く前にMISHOPが情報提供

イ 交流と学びの場（文化活動・紹介） <7票>

- ・ 外国籍の方が参加できる「場」「活動」づくり
- ・ 外国人に発表の場を提供する
- ・ 日本人だけの活動グループを廃止し、外国人と日本人の交流を主体とする
- ・ 折り紙、生け花、書道、茶道のミニ教室の開催
- ・ 外国籍市民が自国文化を紹介できる場の設定

- ・ フィリピンナイトなど、外国籍の人たちが企画して文化を紹介するイベント

ウ 交流の場としての MISHOP <4 票>

- ・ 外国人と日本人との交流の場をもっと増やす
- ・ 日曜、休日でも外国人が気軽に立ち寄れる場（おしゃべりできるスペース）を提供する
- ・ 交流の機会をたくさんつくる（ハイキングなど）
- ・ 双方向の文化交流
- ・ 交流の場
- ・ 市民と外国籍市民の友好をはかるプログラムを多く設定する
- ・ 地域を決めたミニフェスティバルを実施
- ・ 子どもたちが生の海外事情に触れることができるような企画
- ・ 外国人が自らの企画を提案できる場所

エ 残したい意見

- ・ 外国人と日本人の間を繋ぐ架け橋

第3回プロジェクト会議

(2008年9月13日)

参加者 26人

テーマ 今後のMISHOPの活動の方向性
と具体的な活動アイデアの整理

第3回プロジェクト会議では、前回のディスカッション結果を踏まえ、今後のMISHOPの活動の方向性についての確認を行いました。また、新たに取り組むべき活動を見定めるため、ディスカッションで出されたさまざまなアイデアを整理しました。

今後のMISHOPの活動の方向性

第2回プロジェクト会議のディスカッション結果を踏まえ、今後のMISHOPの活動の方向性の案として、次のような体系を設定することで確認を行った。

1 生活・教育支援活動

- (1) 外国籍市民の相談
- (2) 日常生活の支援
- (3) 日本語・日本文化習得に向けた支援
- (4) 災害発生時の支援
- (5) 児童・生徒の生活支援
- (6) 児童・生徒の学習支援

2 交流活動

- (1) 市民・外国籍市民の交流支援
- (2) 外国籍市民の交流支援
- (3) イベント

3 国際理解促進活動

- (1) 多文化理解の促進
- (2) 語学理解の促進

4 情報収集・発信活動

- (1) 情報の収集
- (2) 情報の発信
- (3) 情報の交換
- (4) シンクタンク化

5 活動の拠点づくり

- (1) ラウンジ化
- (2) 協働・ネットワークの拠点化
- (3) 会員活動の活性化

活動体系に沿ったアイデアの整理

今後、MISHOP が新たにどのような活動に取り組んでいくのかを検討する前提として、前回のプロジェクト会議で参加者から出された具体的な活動のアイデアを、上記の活動体系の中に位置づけ直した。

なお、この際、類似の活動アイデアをまとめて整理した（下記のうち「ア・イ・ウ…」で表記）。また、（ ・ ）内は、参加者全員での投票結果（1人10票）で、左は「MISHOP として取り組むべきだと思う活動」、右は「会員として取り組んでみたいと思う活動」の得票数である。

1 生活・教育支援活動

(1) 外国籍市民の相談

- ア 外国籍市民相談窓口の設置 （14・5）
- イ カウンセリングセンターの設置 （1・1）
- ウ 多言語インターネット相談の実施 （2・1）
- エ 多言語電話相談の実施 （3・0）

(2) 日常生活の支援

- ア 転入時生活ガイダンスの実施 （11・5）
 - イ 転入学時オリエンテーションの実施 （6・5）
 - ウ 利用しやすい商店の増に向けた環境整備 （1・1）
 - エ 住宅問題に対する公的支援の実施 （4・1）
 - オ 帰国者へのフォローネットワークの構築 （2・0）
- <ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>
 通訳・翻訳ボランティアサービス

(3) 日本語・日本文化習得に向けた支援

- ア 日本語学習支援の充実と体制の構築 (12・7)
 - イ LLJ活動の充実 (9・6)
 - ウ 日本語学校の運営 (2・1)
 - エ 日本の風俗・習慣への融和支援 (1・4)
 - オ 日本の文化・伝統の紹介機会の拡充 (3・3)
- <ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>
- 日本語入門講座
 - 日本語教授法入門講座
 - LLJ

(4) 災害発生時の支援

- ア 災害時外国籍市民支援センター機能の充実 (9・5)
 - イ 災害時を想定した活動の充実 (3・2)
- <ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>
- 災害発生時外国籍市民対策事業

(5) 児童・生徒の生活支援

- ア 外国籍児童・生徒への生活習慣アドバイスの実施 (7・5)
- イ 外国籍児童・生徒への遊び場・コミュニケーションの場の提供 (2・4)
- ウ 帰国子女への相談・カウンセリングの実施 (4・1)

(6) 児童・生徒の学習支援

- ア 外国籍児童・生徒への日本語習得支援 (10・6)
 - イ 外国籍児童・生徒への学校教科補習授業の実施 (6・3)
 - ウ 教職員向けの外国籍児童・生徒指導研修の実施 (1・1)
- <ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>
- 語学サポート

2 交流活動

(1) 市民・外国籍市民の交流支援

- ア 交流の機会と仲介機能の充実・拡大 (8・8)
 - イ 友好プログラムの創設 (1・1)
 - ウ 地域分散型ラウンジ活動の実施 (0・0)
 - エ 姉妹市町の児童・生徒との交流機会の創設 (1・1)
- <ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>
- ジャパニーズ・イングリッシュラウンジ
 - Let's Play Tennis
 - 囲碁の会

(2) 外国籍市民の交流支援

- ア 地域別のコミュニティ形成支援 (0・2)
- イ 出身国別のコミュニティ形成支援 (0・0)

ウ 母国語と自国文化保持への支援 (2・2)

(3) イベント

ア 国別フェスティバルの実施 (0・3)

イ 地域分散型フェスティバルの実施 (1・2)

<ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>

世界を食べよう

海外学生交流事業

国際交流フェスティバル

国際交流スキーツアー

交流サロン

子ども交流会

バスハイク事業

国際交流ウォークラリー

フェアウェルパーティ

3 国際理解促進活動

(1) 多文化理解の促進

ア 市民と外国籍市民との双方向の文化交流活動の促進 (12・9)

イ 外国籍市民の自国文化紹介の場の創設 (8・3)

ウ 児童・生徒の国際理解の促進 (7・5)

エ 積極的なホームステイ受け入れの支援 (0・0)

オ 市民への海外渡航相談・情報提供の実施 (0・0)

<ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>

国際理解講座

MISHOP フォーラム

NGO 交流会

NGO 活動等助成事業

ホームステイ助成事業

小中学校国際理解教育推進事業

青少年意識啓発事業

時事問題について語り合う会

スタディツアーの会(スタディツアー報告会を含む)

(2) 語学理解の促進

<ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>

ハングル入門講座

中国語入門講座

E.E.S

サランバン(ハングル)

ニイハオ会(中国語)

龍縁会（中国語）
時事英語を楽しむ会
Newsweek を読んでみよう
Women's Reading Club

4 情報収集・発信活動

(1) 情報の収集

- ア 外国籍市民支援に向けた積極的な情報収集の実施（４・４）
- イ 外国籍市民の積極的なニーズ把握の実施（１０・８）

(2) 情報の発信

- ア 外国籍市民の視点に立った情報発信の充実（２・５）
- イ 充実した生活情報知識の提供機会の拡充（６・６）
- ウ MISHOP 活動の PR の活発化（９・８）
- エ 他団体との連携による情報発信網の拡大（４・３）
- オ 三鷹市の施策の PR の支援（１・１）

<ここに分類される MISHOP の既存活動・自主グループ活動>

YEAR BOOK の制作
短信・ニュースレターの発行
活動紹介ビデオの制作
ホームページの運用

(3) 情報の交換

- ア インターネットの活用による情報交換機能の充実（３・２）
- イ 国際交流センター内での情報交換機能の充実（５・３）
- ウ 外国籍市民の口コミ情報網の活用（１・１）

(4) シンクタンク化

- ア 国際化・海外支援に関する調査・研究の実施（５・６）
- イ 行政への積極的な施策提言と外国籍市民の参加促進（５・２）
- ウ 三鷹市と MISHOP の役割分担の明確化に向けた検討（１１・６）
- エ 公的業務の MISHOP へのアウトソーシングの促進（４・３）

5 活動の拠点づくり

(1) ラウンジ化

- ア 外国籍市民のたまり場・安らぎの場・情報交換の場機能の充実（１２・７）
- イ 国際交流センターの日曜日開館（８・３）
- ウ 国際電話・インターネットの無料利用サービスの実施（２・２）

(2) 協働・ネットワークの拠点化

- ア 市内の施設・関連機関とのネットワークの充実（０・２）
- イ 外国籍市民向け行政サービスのワンストップ化の検討（３・０）

ウ 他市国際交流機関との連携強化 (5・5)

(3) 会員活動の活性化

ア 会員・外国人登録者の増強・人材確保と活動の促進 (13・8)

イ 委員会活動の活性化 (3・2)

ウ 在勤外国籍市民の参加促進 (2・0)

第4回プロジェクト会議

(2008年10月18日)

参加者 24人

テーマ MISHOPで新たに取り組む
活動の選定

第4回プロジェクト会議では、これからのMISHOPが新たにどのような活動に取り組んでいくかを選定するため、前回の会議で整理した活動のアイデア全件について、「公益性」「実現性」「緊急性」「MISHOPらしさ」の観点から検討を行いました。

検討方法

第2回プロジェクト会議のディスカッションで参加者から出された具体的な活動アイデアを、第3回プロジェクト会議で、類似のものをまとめながら新たなMISHOPの活動体系案の中に位置づけ直した。

これを踏まえ、今回は、この活動アイデアの中から、実際に今後のMISHOPが取り組むべき活動の選定するための検討を、「生活・教育支援活動検討チーム」、「国際理解促進活動、情報収集・発信活動検討チーム」、「交流活動、活動の拠点づくり検討チーム」の3グループに分かれて行った。

1 検討項目

第3回プロジェクト会議で整理した活動のアイデア全件について、「公益性」「実現性」「緊急性」「MISHOPらしさ」の4つの観点から検討し、それぞれ5段階での評価を行った。

検討に当たっての基準設定は、次のとおりである。

(1) 公益性

このアイデアは、広く市民に役立つアイデアだと思うか？

公益性は低い「1」～公益性は高い「5」

(2) 実現性

このアイデアを実現するために必要なヒト・モノ・お金・情報・ノウハウが、MISHOPで調達できると思うか？

調達できない「1」～調達できる「5」

(3) 緊急性

この活動のアイデアは、緊急性の高い取り組みだと思うか？

緊急性は低い「1」～緊急性は高い「5」

(4) MISHOPらしさ

この活動のアイデアは、MISHOPらしい取り組みで、今後の方向性と合っていると思うか？

2 今後の展開方法の確定

上記1の検討を踏まえ、それぞれの活動アイデアの今後の展開方法を、次の基準で区分した。

- A 新規活動として事業化をはかり実施したい。
- B 既存の活動と統合し、再構築をはかった上で実施したい。
- C 実施に向けた検討を継続したい。
- D 実施を見送りたい。

検討結果

()内の左が5段階評価の総合点(満点=20点) 右が今後の展開方法です。

1 生活・教育支援活動

(1) 外国籍市民の相談

- ア 外国籍市民相談窓口の設置 (19・A)
- イ カウンセリングセンターの設置 (14・C)
- ウ 多言語インターネット相談の実施 (9・D)
- エ 多言語電話相談の実施 (14・C)

(2) 日常生活の支援

- ア 転入時生活ガイダンスの実施 (19・A)
- イ 転入学時オリエンテーションの実施 (20・A)
- ウ 利用しやすい商店の増に向けた環境整備 (18・A)
- エ 住宅問題に対する公的支援の実施 (12・D)
- オ 帰国者へのフォローネットワークの構築 (4・D)

(3) 日本語・日本文化習得に向けた支援

- ア 日本語学習支援の充実と体制の構築 (20・B)
- イ LLJ活動の充実 (20・B)
- ウ 日本語学校の運営 (14・C)
- エ 日本の風俗・習慣への融和支援、日本の文化・伝統の紹介機会の拡充
日本の文化・伝統・風俗・習慣の相互理解の促進 (18・B)

(4) 災害発生時の支援

- ア 災害時外国籍市民支援センター機能の充実 (20・B)
- イ 災害時を想定した活動の充実 (20・B)

(5) 児童・生徒の生活支援

- ア 外国籍児童・生徒への生活習慣アドバイスの実施 (20・A)
- イ 外国籍児童・生徒への遊び場・コミュニケーションの場の提供 (20・A)
- ウ 帰国子女への相談・カウンセリングの実施 (20・A)

(6) 児童・生徒の学習支援

- ア 外国籍児童・生徒への日本語習得支援 (20・A)
- イ 外国籍児童・生徒への学校教科補習授業の実施 (20・A)
- ウ 教職員向けの外国籍児童・生徒指導研修の実施 (20・B)

2 交流活動

(1) 市民・外国籍市民の交流支援

- ア 交流の機会と仲介機能の充実・拡大、友好プログラムの創設 (16・A B)
- イ 地域分散型ラウンジ活動の実施
 - 市内分散型ラウンジ (11・B)
 - 国別ラウンジ (11・B C)
- ウ 姉妹市町の児童・生徒との交流機会の創設 (15・A)

(2) 外国籍市民の交流支援

- ア 地域別のコミュニティ形成支援 (15・A)
- イ 出身国別のコミュニティ形成支援 (12・C)
- ウ 母国語と自国文化保持への支援 (14・C)

(3) イベント

- ア 国別フェスティバルの実施、地域分散型フェスティバルの実施 (16・A)

3 国際理解促進活動

(1) 多文化理解の促進

- ア 市民と外国籍市民との双方向の文化交流活動の促進 (17.6・A)
- イ 外国籍市民の自国文化紹介の場の創設 (18.0・A)
- ウ 児童・生徒の国際理解の促進 (16.2・A)
- エ 積極的なホームステイ受け入れの支援 (12.1・B)
- オ 市民への海外渡航相談・情報提供の実施 (6.1・D)

(2) 語学理解の促進

新たなアイデアなし

4 情報収集・発信活動

(1) 情報の収集

- ア 外国籍市民支援に向けた積極的な情報収集の実施 (17.8・A)

イ 外国籍市民の積極的なニーズ把握の実施 (18.0・A)

(2) 情報の発信

ア 外国籍市民の視点に立った情報発信の充実 (17.6・A)

イ 充実した生活情報知識の提供機会の拡充 (17.0・A)

ウ MISHOP 活動の PR の活発化 (17.0・B)

エ 他団体との連携による情報発信網の拡大 (14.8・B)

オ 三鷹市の施策の PR の支援 (12.5・B)

(3) 情報の交換

ア インターネットの活用による情報交換機能の充実 (16.8・B)

イ 国際交流センター内での情報交換機能の充実 (15.6・B)

ウ 外国籍市民の口コミ情報網の活用 (14.1・C)

(4) シンクタンク化

ア 国際化・海外支援に関する調査・研究の実施 (14.0・C)

イ 行政への積極的な施策提言と外国籍市民の参加促進 (13.1・A)

ウ 三鷹市と MISHOP の役割分担の明確化に向けた検討 (17.8・C)

エ 公的業務の MISHOP へのアウトソーシングの促進 (13.9・C)

5 活動の拠点づくり

(1) ラウンジ化

ア 外国籍市民のたまり場・安らぎの場・情報交換の場機能の充実 (18・A)

イ 国際交流センターの日曜日開館 (14・C)

ウ 国際電話・インターネットの無料利用サービスの実施 (アに統合)

(2) 協働・ネットワークの拠点化

ア 市内の施設・関連機関とのネットワークの充実 (15・A)

イ 外国籍市民向け行政サービスのワンストップ化の検討 (18・A B)

ウ 他市国際交流機関との連携強化 (18・A)

(3) 会員活動の活性化

ア 会員・外国人登録者の増強・人材確保と活動の促進 (19・A)

イ 委員会活動の活性化 (16・A B)

ウ 在勤外国籍市民の参加促進

外国籍市民の参加促進 (16・A)

第5回プロジェクト会議

(2008年11月22日)

参加者 26人
テーマ MISHOPで新たに取り組む
活動の選定

第5回プロジェクト会議では、前回に引き続き、これからのMISHOPが新たにどのような活動に取り組んでいくかの選定作業を行いました。特に、全体のバランスを勘案しながら、前回の検討結果を再調整しました。

検討方法

前回は、さまざまな活動アイデアについて、「公益性」「実現性」「緊急性」「MISHOPらしさ」の観点から検討を行い、その上で、今後の展開を

- A 新規活動として事業化を図り実施したい。
- B 既存の活動と統合し、再構築を図った上で実施したい。
- C 実施に向けた検討を継続したい。
- D 実施を見送りたい。

のいずれかに確定させた。

今回は、このうち、特にAまたはBとしたものについて、一括して事業化に向けた検討ができるものはないかの確認を行うとともに、活動体系上の位置づけを調整した。さらに、限られたリソースの有効活用という観点から、AとしたもののうちB（既存活動の再構築）などによって対応できるものがないかの検討を行った。

検討結果

1 生活・教育支援活動

(1) 外国籍市民相談活動 (A)

「外国籍市民相談窓口の設置」「転入時生活ガイダンスの実施」「利用しやすい商店の増に向けた環境整備」「外国籍市民向け行政サービスのワンストップ化の検討」などを含め、「外国籍市民相談活動」として実施方策を検討する。

【留意点】

ア 専門の相談員（弁護士・カウンセラーなど）の配置は困難。日常的な生活相談、行政サービ

スの利用申請支援などのレベルでの実施を検討する。

イ 事務局窓口をインフォメーションセンターとし、MISHOP での解決が困難な問題については、適切な機関へ繋ぐ役割を果たす。

ウ あわせて、電話相談についても検討する。

(2) 日本語・日本文化習得支援活動 (B)

「日本語学習支援の充実と体制の構築」「LLJ 活動の充実」「日本の文化・伝統・風俗・習慣の相互理解の促進」などを含め、体系的な日本語・日本文化習得支援活動として実施方策を検討する。

【留意点】

ア 日本語習得と日本文化習得は切り離せない。

イ 「LLJ」や「日本語入門講座」など既存の活動を再構築する中で、体系的な日本語・日本文化習得支援活動を検討する。

ウ 多様なニーズに合わせ、入門レベルを終了した外国籍市民のため、テレビニュース、新聞、映画などを題材とした講座のカリキュラムなどを検討する。

(3) 外国籍児童・生徒支援活動 (A)

「外国籍児童・生徒の生活習慣アドバイスの実施」「外国籍児童・生徒への遊び場・コミュニケーションの場の提供」「帰国子女への相談・カウンセリングの実施」「外国籍児童・生徒への日本語習得支援」「外国籍児童・生徒への学校教科補習授業の実施」「教職員向けの外国籍児童・生徒指導研修の実施」「転入学時オリエンテーションの実施」などを含め、外国籍等の児童・生徒の日本語・生活習慣・学校教科習得支援の総合的な実施方策を検討する。

【留意点】

ア 市内他団体の活動との連携を図る中で、日本語・生活習慣・学校教科の習得支援を一本化して検討する。

イ 「語学サポート」との連携やボランティアの条件の検討が必要である。

(4) 災害発生時支援活動 (B)

「災害時外国籍市民支援センター機能の充実」「災害時を想定した活動の充実」などを含め、外国籍市民のための災害発生時支援活動を検討する。

2 交流活動

(1) 交流支援活動 (B)

「交流の機会と仲介機能の充実・拡大、友好プログラムの創設」「地域分散型ラウンジ活動の実施」「地域別のコミュニティ形成支援」「外国籍市民の参加促進」などを含め、既存の「ジャパニーズ・イングリッシュラウンジ」の新たな展開方策を検討する。

【留意点】

ア ラウンジ活動の目的などを再確認しながら、地域分散型、多くの外国籍市民が交流活動や市民活動に参加できる仕掛けづくり、外国籍市民が発信者として活動に参加できる仕掛けづくりなどを検討する。

イ 既存の「交流サロン」「バスハイク事業」などについて、ラウンジ活動の展開の中で総合的に推進する方策を検討する。

(2) イベント交流支援活動 (B)

「国際交流フェスティバル」の内容充実方策を検討する。

【留意点】

ア 国際交流フェスティバルについて、ステージのテーマ性、国別ブースの設置など、趣旨を再確認しながら内容の充実方策を検討する。

イ 地域分散型フェスティバル、国別フェスティバルについては、将来的な課題とする。

3 国際理解促進活動

(1) 多文化理解促進活動 (A)

「市民と外国籍市民との双方向の文化交流活動の実施」「外国籍市民の自国文化紹介の場の提供」などを含め、座学にとどまらない体験型の活動展開を検討する。

【留意点】

ア 外国籍市民による自国文化紹介の場の創設を含め、双方向性を強化した体験型の活動展開を検討する。

イ 「国際理解講座」「交流トーク in ENGLISH LOUNGE」「世界を食べよう」などの新たな展開方策を検討する（ラウンジ活動との連携についても検討する必要がある。）。

(2) 児童・生徒向け多文化理解促進活動 (A)

学校との連携の中で、児童・生徒の多文化理解促進のための活動を検討する。

(3) ホームステイ受け入れ支援活動 (B)

「積極的なホームステイ受け入れの支援」に向け、「ホームステイ助成事業」の活性化や、気軽なホームビジットの仕組みづくりなどを検討する。

4 情報収集・情報発信活動

(1) 情報収集活動 (A)

「外国籍市民相談活動」をはじめ、支援・交流・理解に関する MISHOP の各活動の具体的な方策を検討する中で、「外国籍市民支援に向けた積極的な情報収集の実施」「外国籍市民の積極的なニーズ把握の実施」などを含めた情報収集に十分配慮する。

(2) 情報発信活動 (A)

「外国籍市民の視点に立った情報発信の充実」「充実した生活情報知識の提供機会の拡充」「MISHOP 活動の PR の活発化」「三鷹市の施策の PR の支援」などを含め、効果的な情報発信のあり方を検討する。

【留意点】

ア 外国籍市民に向けた生活情報・知識の提供機会の拡充方策を検討する。

イ ホームページ、リーフレットなどでの積極的な協会活動の PR 手法を検討する。

ウ 「外国籍市民の口コミ情報網の活用」については、将来的な課題とする。

(3) シンクタンク機能促進活動 (A)

「行政への積極的な施策提言と外国籍市民の参加促進」「三鷹市と MISHOP の役割分担の明確化」などを検討する。

5 活動の拠点づくり

(1) コミュニケーションスペース機能充実活動 (A)

「外国籍市民のたまり場・安らぎの場、情報交換の場機能の充実」「インターネットの活用による情報交換機能の充実」「国際交流センター内での情報交換機能の充実」などを含め、国際交流センターのコミュニケーションスペース化を検討する。

【留意点】

ア 多言語新聞・資料の充実、インターネットを通じた情報収集や情報交換のためのパソコンの配置、生活必需品交換のための掲示などを含め、フロアのレイアウト全体を検討する。

イ 国際交流センターの日曜日開館については、将来的な課題とする。

(2) ネットワーク促進活動 (B)

「市内の施設・関係機関とのネットワークの充実」「他市国際交流機関との連携強化」「他団体との連携による情報発信網の拡大」などを含め、ネットワーク化の促進について検討する。

(3) MISHOP 活性化活動 (B)

「会員・外国人登録者の増強・人材確保と活動の促進」「委員会活動の活性化」などを含め、連絡調整会議などとの連携の中で MISHOP の活性化について検討する。

第 6 回プロジェクト会議 (2008 年 12 月 20 日)

参加者 33 人
テーマ MISHOP で新たに取り組む
活動の確定

第 6 回プロジェクト会議では、前々回、前回は引き続き、これからの MISHOP が新たにどのような活動に取り組んでいくかの選定作業を行い、これを確定させました。

検討方法

前々回、前回に行った「MISHOP で新たに取り組む活動の選定」の結果を踏まえ、各活動の今後の展開方法と検討に当たっての留意点についての最終確認を行った。

さらに、新たに取り組むとした活動のうち、既存の活動の再構築の中で対応できるものがないかどうかを確認した上で、活動体系上の位置づけの再調整を行った。

検討結果

今回までの検討でまとまった、今後の MISHOP で「新規」に取り組むべき活動、「再構築」をはかるべき活動は、次ページの表「MISHOP の活動体系と活動メニュー」のとおりである。

なお、ここでは、これら「新規」「再構築」の活動に加え、従来から行っている「既存」の活動もメニューの中に位置づけ、MISHOP の活動全体を表示している。

MISHOP の活動体系と活動メニュー

目 的		活動メニュー	展開	
地 域 の 国 際 化 の 推 進	生活・教育支援活動	日常生活相談活動	新規	
		通訳・翻訳ボランティアサービス	既存	
		日本語・日本文化習得支援活動	体系的な日本語習得支援活動	再構築
			日本語教授法入門講座	既存
		児童・生徒支援活動	児童・生徒の生活・学習支援活動	新規
			語学サポート	既存
	災害時支援活動	災害時外国籍市民支援センターの運営	再構築	
		通訳・翻訳ボランティアサービス（災害時）	既存	
	国際理解促進活動	多文化理解促進活動	双方向型多文化理解促進活動	新規
			国際理解講座	既存
			NGO 交流会	既存
		児童・生徒多文化理解促進活動	学校との連携による多文化理解促進活動	再構築
			国際理解プログラムの提供	既存
			海外学生交流事業	既存
			子ども交流会	既存
		外国語習得支援活動	外国語入門講座（中国語）	既存
	外国語入門講座（ハングル）		既存	
	国際交流活動	交流支援活動	ジャパニーズ・イングリッシュラウンジ、交流サロン	再構築
			世界を食べよう	既存
			バスハイク事業	既存
		イベント交流支援活動	国際交流フェスティバル	再構築
			国際交流ウォークラリー	既存
			国際交流スキーツアー	既存
			フェアウェルパーティ	既存
多文化共生拠点化活動	コミュニケーションスペース充実活動	コミュニケーションスペース化（ハード）	新規	
		コミュニケーションスペース化（ソフト）	新規	
	協働・ネットワーク促進活動	関係団体との協働・ネットワーク化の強化	再構築	
		NGO 活動等助成事業	既存	
	情報発信活動	外国籍市民の視点に立った効果的な情報発信	新規	
		MISHOP 活動の積極的な PR	再構築	
	MISHOP 活性化活動	シンクタンク化への仕組みづくりの検討	再構築	
		会員活動活性化方策の検討	再構築	
		委員会のあり方についての検討	再構築	
		Kick-off Meeting（維持会員報告会）	既存	
ホームステイ助成事業	既存			

第7回プロジェクト会議

(2009年1月24日)

参加者 23人

テーマ 新たに取り組む活動および
再構築を図る活動の検討

第7回プロジェクト会議では、これからの MISHOP が新たに取り組む活動と、再構築した上で実施していく活動について、グループに分かれての検討をスタートしました。

検討方法

前回までの検討でまとめた「MISHOP の活動体系と活動メニュー」にのっとり、「新規」で展開する活動と、「再構築」を図った上で展開する活動について、次により活動内容の大枠の検討を開始した。

なお、参加者は、あらかじめ設定した3つの活動の中から関心のあるテーマを選択し、グループに分かれて検討を行った。

1 活動目的の確認

MISHOP の活動体系の中での位置づけや他の活動との棲み分けを考慮しながら 検討対象となっている活動の目的を明確にした。

2 活動の対象の検討

活動の目的や他の活動との棲み分けを念頭に置きながら、当該活動がどのような層を対象に展開されるべきかを検討した。

3 活動の留意点の確認

今後、当該活動を具体化する際の指針となるよう、必ず留意すべき「視点」や必ず盛り込むべき「考え方」などを確認した。

4 活動の形態の検討

活動の目的、対象者、留意点などを踏まえ、当該活動をどのような形態で実施すると効果的かつ効率的かを検討した。

5 活動の課題の確認

上記1~4の検討を踏まえ、当該活動を実施する上での課題の洗い出しを行った。また、限られたリソースの中での実現可能性についても検討した。

6 活動検討機関の確定

当該活動を具体化し推進していくのはどのような機関が適切なのかを検討した。

検討テーマ

今回は、外国籍市民の「日常生活相談活動」、日本人と外国籍市民との「双方向型多文化理解促進活動」、「国際交流フェスティバル」の内容充実方策、の3つのテーマについて検討した。

検討結果

1 日常生活相談活動

- (1) 目的
 - ア 日常的な生活相談・生活支援
 - イ よろず相談兼インフォメーションセンター
- (2) 対象
 - ア 外国籍市民
 - イ 外国籍市民に関する相談であれば誰でも
- (3) 留意点
 - ア ボランティアとの連携
 - イ 情報の蓄積（事例集・失敗例・マニュアル化など）
 - ウ 通訳をつけて対応し、対応が困難な専門相談は他の相談窓口に繋げていく。

- エ 市の相談窓口への通訳の同行
- オ いずれは MISHOP に専門家を配置
- (4) 形態
 - ア ボランティア
 - イ 事務局
 - ウ 市の窓口
- (5) 課題
 - ア ボランティア、事務局の活動がスムーズになるような勉強会
 - イ 小さくスタートさせて大きく育てる。
- (6) 検討機関
 - ボランティア、事務局

2 双方向型多文化理解促進活動

- (1) 目的
 - ア 多文化理解の促進
 - イ 地球市民意識の醸成と多文化共生社会の構築
- (2) 対象
 - 限定なし
- (3) 留意点
 - ア 外国籍市民の積極的参画
 - イ 外国籍市民の自国文化紹介の場
 - ウ 外国籍市民が日本文化を知る場
 - エ 外国籍市民が外国文化を知る場
 - オ 一つの事象を通じてさまざまな考え方を理解する場
- (4) 形態
 - ア 講演会に加え、定期的なイベントで外国籍市民の連鎖的な参加を
 - イ 参加型・体験型
 - ウ 外部関連機関との連携
 - エ 関連して、国際理解講座と NGO 交流会の再構築・統合を検討
- (5) 課題
 - ア 人材の発掘・育成
 - イ 情報収集と会員への情報提供
 - ウ 多言語対応（通訳ボランティア）
 - エ 外国籍市民が集まる拠点の調査
 - オ 外部講座情報の市民への提供
- (6) 検討機関
 - 既存の委員会および外国籍市民参画促進チーム

3 国際交流フェスティバル

(1) 目的

- ア 国際交流
- イ MISHOP の PR

(2) 対象

- ア 大人、子ども
- イ 外国籍市民
- ウ すべての市民（三鷹市在活動者）
- エ MISHOP 会員
- オ 宗教・政治的活動団体を除く

(3) 留意点

- ア 規模よりも質の向上（国際性の向上）
- イ 各国の特徴を PR する（国際性の向上）
- ウ 国際性の向上のステージへの反映
- エ 新たなキーワードの検討
- オ 国別ブースの設置
- カ 天候・場所、スペースの用途区分

(4) 形態

- ア 活動の形としてブースが必要
- イ ステージのパフォーマンスを分割する可能性を検討

(5) 課題

- ア 天候のリスク
- イ 運営当事者の満足度（感謝の表明方法）を検討
- ウ 観光協会などとの共催の場合のメリットを検討
- エ 地域分散型・国別フェスティバルについては、交流サロンで検討

(6) 検討機関

MISHOP 全体で検討し、フェスティバル実行委員会で具現化

第8回プロジェクト会議

(2009年2月14日)

参加者 24人

テーマ 新たに取り組む活動および
再構築を図る活動の検討

第8回プロジェクト会議では前回に引き続き、これからの MISHOP が新たに取り組む活動と、再構築した上で実施していく活動について、グループに分かれて検討しました。

検討テーマ

今回は、外国籍の「児童・生徒の生活・学習支援活動」、「学校との連携による児童・生徒の多文化理解促進活動」、MISHOP フロアアの「コミュニケーションスペース化」の3つのテーマについて検討した。

検討結果

1 児童・生徒の生活・学習支援活動

(1) 目的

- ア 外国籍児童・生徒の日本語習得
- イ 外国籍児童・生徒の学習習得

(2) 対象

市内の外国籍児童・生徒（小中学生）

(3) 留意点

- ア 児童・生徒のメンタル面でのケア
- イ 家庭との連携
- ウ 地域内で同様の活動をしている団体との連携

(4) 形態

- ア マン・ツー・マンの支援
- イ 学習習慣のない子どもたちへのキメ細かな対応

(5) 課題

- ア 学校との連携

- イ 語学サポートとの連携
- ウ 理科系科目の指導者の確保
- エ 地域分散型の検討
- (6) 検討機関
 - ア 語学サポートなどすでに児童・生徒支援に関わっているボランティアを中心に、チームで検討
 - イ 待ったなしで早急に対応

2 学校との連携による多文化理解促進活動

- (1) 目的
 - ア 国際理解の重要性を訴える。
 - イ 既存の「国際理解教育プログラム」の再構築で対応
- (2) 対象
 - ア 市立小中学校向けパッケージ中心
 - イ 高等学校や大学からの要請にも応じる。
- (3) 留意点
 - ア 教師やPTA 向けの啓発
 - イ 学校のカリキュラムの実態把握が必要
 - ウ 提供に当たっての組織化が必要（人材バンク的なもの）
 - エ 言語は手段であり、目的はコミュニケーション
- (4) 形態
 - ア ニーズに合わせてどのような形態でも可
 - イ 多文化理解に向け、学校ではできない内容を提供
- (5) 課題
 - ア 活動に携われる外国籍市民の発掘
 - イ 人材の登録制度の検討
 - ウ より広いマーケティング
 - エ ホームページ等を活用した PR
- (6) 検討機関
 - 青少年企画委員会

3 MISHOP フロアーのコミュニケーションスペース化

- (1) 目的
 - ア たまり場のような気軽さ
 - イ 支援・理解・交流のための拠点づくり
 - ウ 気軽に立ち寄れるスペース
- (2) 対象

- ア 大人・子ども・親子
 - イ すべての市民（在活動者）
 - ウ 現在活動中の自主グループを含む
- (3) 留意点
- 効果的、効率的で公正な利用
- (4) 課題
- スペース運用に当たってのポリシーの明確化と周知
- (5) 検討機関
- プロジェクトリーダーを中心としたボランティア、事務局

第9回プロジェクト会議

(2009年3月7日)

参加者 22人

テーマ 新たに取り組む活動および
再構築を図る活動の検討

第9回プロジェクト会議では前回に引き続き、これからの MISHOP が新たに取り組む活動と、再構築した上で実施していく活動について、グループに分かれて検討しました。

検討テーマ

今回は、「ジャパニーズ・イングリッシュラウンジと交流サロン」、「災害時外国籍市民支援センターの運営」、「外国籍市民の視点に立った効果的な情報発信」、「MISHOP 活動の積極的な PR」、の3つのテーマについて検討した。

検討結果

1 ジャパニーズ・イングリッシュラウンジと交流サロン

(1) 目的

- ア ラウンジは交流を主体とし、お互いの文化理解・援助（相談）・日本語習得ができる場
- イ 外国籍市民のニーズが把握できる場
- ウ ささまざまな活動ができる外国籍市民を発掘できる場

(2) 対象

すべての市民と外国籍市民

(3) 留意点

- ア LLJとの連携
- イ 継続性の必要
- ウ 日常生活上のニーズの吸い上げ

(4) 形態

定期的な集まりとイベント

(5) 課題

- ア LLJとの連携

- イ 外国籍市民の参加促進
- (6) 検討機関
 - 市民交流委員会ならびにラウンジボランティア

2 災害時外国籍市民支援センターの運営

- (1) 目的
 - ア 災害時に外国籍市民が適切に行動できるよう、防災行動力を高める。
 - イ 予防対策・災害時支援
 - ウ 外国籍市民以外の市民への啓蒙
- (2) 対象
 - ア すべての市民を対象に予防対策の取り組みを
 - イ 会員を対象に活動内容の周知を
 - ウ 災害時ボランティア登録者に日常的に啓蒙を
- (3) 留意点
 - ア 活動マニュアルの充実（市本部の動きも分かるように）
 - イ 災害知識を丁寧に提供する（例：震度5とは？）
 - ウ 身の安全を守るためにどうするかが大切
 - エ MISHOP ホームページの活用
- (4) 形態
 - ア 防災訓練、携帯通報訓練
 - イ MISHOP の外に看板
 - ウ 町中の商店に協力してもらおう。
 - エ MISHOP ホームページの活用
- (5) 課題
 - ア 「身を守る」を基本コンセプトに
 - イ 避難第一ではなく「安全第一」
 - ウ ネーミングを検討
- (6) 検討機関
 - 別の検討チームを立ち上げる。

3 外国籍市民の視点に立った効果的な情報発信と MISHOP 活動の積極的な PR

- (1) 目的
 - ア MISHOP を知ってもらおう。
 - イ 外国籍市民への報道のアクセス
- (2) 対象
 - ア すべての市民
 - イ すべての外国籍市民

(3) 留意点

- ア 新しい情報のウオッチ
- イ ホームページをアップ・デイトに改善
- ウ 情報が取り出しやすいホームページに
- エ 外国籍市民が取りやすい方法でパンフレットを（コンビニなど）

(4) 形態

- ア web サイトの重視
- イ パンフレットの口コミでの配布
- ウ パンフレットの配布方法を検討

(5) 課題

- ア MISHOP で把握していない外国籍市民に対する PR
- イ 国別のネットワーク
- ウ 学校を通じた PR

(6) 検討機関

- ア 企画広報委員会
- イ 委員会の下支えのため、情報発信・PR 検討チームを設置

第10回プロジェクト会議

(2009年4月18日)

参加者 23人

テーマ 新たに取り組む活動および
再構築を図る活動の検討

第10回プロジェクト会議では前回に引き続き、これからのMISHOPが新たに取り組む活動と、再構築した上で実施していく活動について、グループに分かれて検討しました。

検討テーマ

今回は、「体系的な日本語習得支援活動」、「会員活動の活性化方策の検討」、「委員会のあり方についての検討」の2つのテーマについて検討した。

検討結果

1 体系的な日本語習得支援活動

(1) 目的

- ア LLJ活動の位置づけの明確化
- イ 日本語入門講座の再構築

(2) 対象

- ア LLJ = 現行の対象者を継続
- イ 日本語入門 = 三鷹で生活を始めた外国籍市民

(3) 留意点

日本語入門講座とLLJとの補完関係の構築

(4) 課題

LLJのニーズに合った日本語教授法入門講座の開催（コーチングや、教授法以外のサポート研修の実施など）

(5) 検討機関

国際理解委員会（LLJからの有志も参加）

2 会員活動の活性化と委員会のあり方について（フリーディスカッション）

- (1) 委員会への外国籍市民の参加促進
- (2) 委員会と日常活動の乖離の解消
- (3) 会員が委員会を知ることが必要
- (4) 「委員会」という名称を変更すべき
- (5) 現場の声を理事会に上げる機関として、委員会を機能させるべき
- (6) 各自主グループなどが代表を委員会に出すべき
- (7) 委員会の敷居が高い。
- (8) 委員会は会員の上部機関ではない。
- (9) 市報の活用による会員増強
- (10) 曜日、時間、スペースの活用
- (11) 外国籍市民の委員会

第 11 回プロジェクト会議

(2009 年 5 月 30 日)

参加者 13 人

テーマ 「MISHOP 活動計画」の確認

第 11 回プロジェクト会議では、「MISHOP 活動計画」の内容確認を行いました。

約 1 年間にわたるプロジェクトチームでの検討は、おおむね次のような流れで行ってきた。

- 1 三鷹市の国際化施策について（三鷹市企画経営室長のレクチャー）
- 2 KJ 法によるディスカッション
- 3 今後の MISHOP の活動の方向性と具体的な活動アイデアの整理
- 4 MISHOP で新たに取り組む活動の選定
- 5 MISHOP で新たに取り組む活動の選定
- 6 MISHOP で新たに取り組む活動の選定
- 7 新たに取り組む活動および再構築を図る活動の検討
- 8 新たに取り組む活動および再構築を図る活動の検討
- 9 新たに取り組む活動および再構築を図る活動の検討
- 10 新たに取り組む活動および再構築を図る活動の検討

また、これと並行して、市民交流委員会、国際理解委員会、青少年企画委員会で、既存の活動についてのレビューを行った（企画広報委員会は、レビュー対象活動なし。）。

今回は、こうした検討の結果とりまとめた MISHOP の「基本方針」と「活動計画」について、最終の確認を行った。

第 12 回プロジェクト会議 (2009 年 10 月 24 日)

参加者 22 人
テーマ 報告書の確認

第 12 回プロジェクト会議では、MISHOP 設立 20 周年プロジェクトチームの報告書全体について、内容の最終確認を行いました。

報告書の提出

MISHOP 設立 20 周年プロジェクトチームでとりまとめた「財団法人三鷹国際交流協会『基本方針・活動計画』検討報告書を、2009 年 11 月 23 日に開催する設立 20 周年記念式典で、チームリーダーから理事長へ提出することで確認がなされた。

報告書の構成の確認

報告書は、次の構成でとりまとめることで確認がなされた。

- 1 チームリーダーによる「はじめに」
- 2 MISHOP の今後の活動の方向性を示すものとしての「基本方針」
- 3 MISHOP の今後の具体的な活動内容を示すものとしての「活動計画」
- 4 約 1 年半にわたるプロジェクトチームの活動を示すものとしての「プロジェクトチーム検討経過」
- 5 プロジェクトチーム立ち上げの際に作成した「MISHOP 基礎 DATA 集」を「参考資料」として掲載